

2019年度(対象年度:2017~2018年度)ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準1	理念・目的
-----	-------

総評

- 0101 学部の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものであり、育成する人間像も明確であるという事であり、適切に設定されている。ただ、これらと大学の基本理念・使命・教育目的との連関性については再検討の必要があるとのことであり、今後の改善が望まれる[0101a][0101b][0101c][0101d][0101e]。
- 0102 学部の教育研究目的や育成する人間像は、学生便覧等、適切な媒体を使って明示されており、記述にも齟齬は無く、周知、公表されている[0101a][0101b][0101c][0101d][0101e]。

長所・特色

- 0101 学部(学科)の教育研究上の目的及び育成する人間像が、学部の教育方針、教育組織の特色を活かした明確なものになっている点[0101a][0101b][0101c][0101d][0101e]。
- 0102 学部(学科)の教育研究上の目的や育成する人間像がHP、大学案内等、各種の媒体を通して、明示されている点[0101a][0101b][0101c][0101d][0101e]。

留意点

- *各項に留意点レベルを記入
- 【A】・・・緊急の改善を要する事項
- 【B】・・・検討を要する事項

- 0101 大学の基本理念・使命・教育目的と学部の教育研究目的や育成する人間像の連関性についての再検討【B】

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準 2	内部質保証
------	-------

総評	
0203	一部学科が当該領域での外部評価を受けていることは望ましい取り組みである[0203a][0203b]。さらにほかの学科にも広げていくことが期待される。
長所・特色	
0203	一部学科が当該領域での外部評価を受けていること[0203a][0203b]。
留意点	
	*各項目に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0203	課題事項にも記述があるが、各領域での外部評価の受審に向けての検討。【B】

ピアレビュー委員会（第3部会）

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準 4	教育課程・学習成果（1）
------	--------------

総評	
0401	医療系有資格者として総合的人間力を涵養することを軸とするDPが適切に設定、公表されている[0401a]。
0402	医療系資格に直結したCPが、DPに沿う形で適切に設定され、カリキュラムマップと科目ナンバリングと共に適切に公表されている[0402b][0403a][0403b]。
0403	医療系資格に直結する学科構成であることから、教育内容やその適切な実施状況は、学科ごとの資格取得率、合格率や資格関連の就職状況からも評価・検証することが必要である[0403a]。こうした評価・検討は、従来は学科毎の教務委員会で実施されていたが、カリキュラム改訂への対応を機に、2018年に学部の教務委員会を設置してそこで行われるようになった。同委員会の開催頻度は数回に止まるが、むしろ初回の委員会で業務分担をした後はメール会議で効果的に業務を進めることができていることが、ヒアリングを通じて確認できた。[0403c]
長所・特色	
0402	医療系資格に特徴づけられたCPが設定され、カリキュラムマップと科目ナンバリングを用いて公表されている[0402b][0403a][0403b]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0403	学部教務委員会のさらなる機能充実が望まれる。【B】

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準 4	教育課程・学習成果 (2)
------	---------------

総評

- 0404 シラバスには必要事項が明示され、各科目について授業内容との整合性が第三者点検に付されている [0404b]。しかしながら授業がシラバス通りに実施されていることの検証が行われていることは確認できない。
- 0405 卒業論文を課して研究力を涵養している点は評価できるが [0405a]、卒業論文の合格基準 (学位審査基準) が個々の研究指導教員に委ねられ、学部で統一された基準が存在せず、ゆえに公表されていない。

長所・特色

- 0405 卒業論文を課して研究力を涵養している点は評価できる [0405a]。

留意点

- * 各項に留意点レベルを記入
- 【A】・・・緊急の改善を要する事項
- 【B】・・・検討を要する事項

- 0404 授業がシラバス通りに実施されていることの検証を行うことが望まれる。【B】
- 0405 卒業論文の合格基準 (学位審査基準) について、学部で統一基準を設け、公表することが望まれる。【B】

ピアレビュー委員会 (第3部会)

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準 4	教育課程・学習成果 (3)
------	---------------

総評	
0406	<p>成績分布について、「教育・研究活動に関する実態資料」の情報の活用を図ろうとしているのか、いないのか読み取りにくい。</p> <p>学習成果については、試験成績による評価、ルーブリックを活用した測定はされているようであるが、学生アンケートの実施はなされていない様である。</p> <p>資格取得を前提とする課程であるため、教育内容が厳格に規定されているなか、ルーブリック評価を積極的に取り入れている点は評価できる。しかし、その実施状況を示す根拠資料は示されていない。したがって、これが学部全体での取り組みなのか、一部学科での取り組みなのかは判断できない。</p> <p>成績分布、試験放棄、進級などの実績を把握し、その後、これらをどう改善に向けて活かしていくのか、明記されていない。これは学部全体の問題でもあるため、学部としても検討していく余地がある。</p>
0407	<p>重点目標の設定が厚労省の指定規則があるために設定しにくいとあるが、なぜなのかが分かりにくい。</p> <p>取り組みは、あくまでも個々の教員の認識・姿勢に任されており、適切な点検・評価、改善・向上が図られているかは不明な表現となっている。例えば、資格取得率、資格合格率や資格を活かした就職先への就職率が向上しているかなど、資格取得を前提とする学部ならではの数値を活かした取り組みも可能と思われる。</p>
長所・特色	
0406	<p>ルーブリックを導入しようとして、FD研修会を開くなど、積極性が見られる。</p> <p>GPA制度等を十分に活用し、学生個々の学習成果の確認を行っている。</p>
留意点	
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p style="text-align: right;">【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p style="text-align: right;">【B】・・・検討を要する事項</p>	
0406	<p>ルーブリック評価の導入が必ずしも十分に行われていない。実習科目を中心に、ルーブリック評価の導入を促進しようとしている。【B】</p>

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

総評	
0501	APはDP、CPに則り定められ、それが適切に公表されている[0501a][0501b][0501c]。
0502	入学者選抜制度の整備・運営に関しても概ね適切になされているようであるが、CPと学生募集、入学者選抜方法等との関連については、成績不振者の分析が不十分であると自己評価していることもあり、検討の余地があるようである。
0503	入学者数や在籍学生数は適切に管理されている。
0504	各種の選抜方法の適切性について、指定校、併設校については検討がなされているということだが、その他の試験についての記述がない。また、検討した結果に基づいた改善・向上を行うための年度重点目標の設定が望まれる。 入学後の成績の動向を調査し併設校の評定基準の見直しを定期的に行うことは必要である。 学生募集及び選抜方法については、各学科で検討されているが、学部全体で連携がとられていない[0504a]。
長所・特色	
0504	各学科において、指定校推薦、併設校推薦による入学者について、入学後の動向を分析しながら評定基準の検討をしている点 [0502a]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0502	CPと学生募集、入学者選抜方法等との関連については、成績不振者の分析が不十分であると自己評価していることから、検討の余地がある。【B】
0504	年度重点目標の設定が望まれる。また学生募集・選抜方法の検討は、学科単位だけでなく、学部単位でも連携がとられることが望ましい。【B】

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

総評	
0602	教員組織は概ね適切に編成されているが、その基準について大学設置基準、指定規則とともに、教育理念・目的が実現できるかどうかという視点も必要である[0602a][0602b][0602c][0602d][0602e][0602f]。 女性教員数の比率も考慮され、適正な教員組織が編成されている[0602g]。
0603	各学科で昇格基準を設け、厳格に運用している点は評価できる[0603b]。
0604	学部での組織的な FD 活動が実施されている。ただし、研修会への出席率などは不明で、その改善に向けた取り組みが同時に行われる必要がある[0604a][0604b]。
0605	組織の適切性に関する点検評価と、個々の教員の点検評価(報告書)とを区別する必要がある。明らかになった個々の教員の点検、評価結果が改善・向上に向けてどのように活かされているのかが不明確である[0605a]。
長所・特色	
0603	学科ごとに昇格基準を設け、厳格に運用している[0603b]。
0604	FD活動として研修会を毎年2回開催し、授業内容、評価法の向上を図っている[0604a]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし。	

ピアレビュー委員会（第3部会）

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準7	学生支援
-----	------

総評

0702 修学に関する適切な支援が学科単位でなされている[0702a][0702b]。
 ハラスメント研修会を開催するなど、積極的で適切な取り組みがなされており、抑止成果が上がっている[0702c][0702d]。
 学科ごとに個別の企業説明会を開催し、積極的で適切な取り組みがなされている[0702f]。
 報酬型インターンシップやリスク予防管理士制度に関する取り組みがなされているが、活用としては不十分である。また、インターンシップA・Bに関する状況については記述がなく、状況を把握することができない。
 学生の要望をどのように抽出し、それをどのように活かして支援を実施しているのか、明確にされていない。

長所・特色

0702 ハラスメント防止策、啓蒙的活動を積極的に行うとともに、ハラスメント事案については学科・学部として対応し、情報を共有して対策、検証を行っている[0702c][0702d]。
 学科ごとに企業説明会を行っている[0702f]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項
 【B】・・・検討を要する事項

0702 ハラスメント防止対策は、教員対象の研修会を行うだけでなく、学生を対象とした講演会等の実施も望まれる[0702c][0702d]。【B】

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準 8	教育研究等環境
------	---------

総評

- 0802 学生一人当たりの施設基準面積が学科間で差があるとのことであるが、基準面積が満たされているかどうか不明である [0802a]。
- 0802 各学科の教育課程としての特徴を踏まえたうえでの基準面積格差の改善が図られる必要がある。
- 0806 教育環境に関する自己点検・評価が実施され、改善に向けた取り組みが進められている。
- 0806 老朽化した設備、備品については、重点計画表、中期計画表を作成し、点検・検証を行っている [0806a] [0806b] [0806c]。

長所・特色

- 0806 自己点検により、機器・備品等の必要度に優先順位をつけ、中長期計画を立てている点 [0806a] [0806b]。

留意点

- *各項に留意点レベルを記入
- 【A】・・・緊急の改善を要する事項
- 【B】・・・検討を要する事項

- 0802 学科間の格差は少しずつでも解消すべきである。【B】
- 0806 老朽化した機器・備品の更新 [0806a] [0806b]。【B】

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準 9	社会連携・社会貢献
------	-----------

総評	
0902	学科や研究所主催で市民参加のシンポジウムやセミナーの開催を行っていることは評価できる [0902d]。 社会連携や地域貢献、国際交流については、個々の教員レベルにおけるものが大半という事なので、学科学部単位で対応できる事柄の検討が望まれる。
長所・特色	
0902	各学科や研究所主催で市民参加のシンポジウムやセミナーが開催されている点 [0902d]。 0902 COCに関する取り組みは特筆に値する。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし。	

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学部
--------	---------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

総評	
1120	主任会、教授会は、個々の教員の組織運営意識が高く、出席率も高い。また、議事録の作成等が適切に実施されている。[1120a] [1120b]。新たに設置した学部教務委員会については、さらに活動を活発化させる必要がある。そして、この学部教務委員会についての記述はあるが、その他の委員会についての記述がない。
長所・特色	
11120	主任会、教授会は、個々の教員の組織運営意識が高く、出席率も高い。また、議事録の作成等が適切に実施されている。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし。	